

第3章

次代につなぐ環境と調和のとれたひょうご五国の農林水産業・農山漁村

- 基本方向1 収益性の高い農林水産業の実現
- 基本方向2 にぎわいのある農山漁村の創出
- 基本方向3 県民とともに育む豊かな食と「農」の充実

第3章

農林水産ビジョン2035のめざす姿

基本方向1 収益性の高い農林水産業の実現

【畜産業の生産者】
スマート機器や暑さ対策技術のおかげで管理がしやすくなって生産性が向上しました。耕畜連携で堆肥の利用が進み、飼料作物も増産されているので増頭がしやすくなりました。改良も進んで国内外への県産畜産物の供給が増えています。

【林業の生産者】
高精度な森林資源データのおかげで、森林所有者に詳細な施業提案を行うことができ、また、高性能林業機械による施業の低コスト化やJ-クレジット制度等による企業からの支援もあり、森林資源の循環利用が進みつつあります。

【農業の生産者】
広い農地がまとまっているので、スマート農業技術が活用しやすくなりました。後継者もできて、農業支援サービス事業者も活用しながら規模拡大しています。気候変動に強い品種や技術も取り入れながら人と環境にやさしい農業を実践しています。

【流通・食品産業事業者】
地元の農林水産物を活かした商品開発が進み、消費者の支持を得ています。生産者との連携も強化され、安定供給と地域ブランドの確立が進んでいます。

【水産業の生産者】
栄養塩類の管理や種苗放流などのおかげで資源が回復して、「豊かな海」が戻ってきました。コスト低減も進んでいて、収益性がアップしているので、次世代につなぐことができます。

主伐・再造林
高性能林業機械
スマート畜産技術
スマート農業技術
6次産業化
有機農業
異業種連携
耕畜連携
省エネ型漁船
海外輸出
種苗放流
クマエビ

食事処
JAS
美味し風土
食品事業者
ひょうご安心ブランド

兵庫県マスコットはばタン

基本方向2

保安林
里山林の整備
ため池のかいぼり
不要果樹の伐採
ため池防災工事
半農半X
ひょうごバイオマス
防波堤の改良工事
漁港の耐震化
港口水門

次代につなぐ環境と調和のとれたひょうご五国の農林水産業・農山漁村

都市近郊の立地や多様な自然環境など兵庫県の強みを活かすとともに、新たな品種の開発・導入やスマート技術などを活用し、環境と調和のとれた、生産性の高い力強い農林水産業が展開されています。

また、自然災害への対応として、計画に基づく防災・減災対策や新たな森林整備手法などが進み、農山漁村コミュニティが維持・発展するとともに、都市部と農山漁村の交流が活発に行われ、地域活性化や地域資源を活用したビジネスの創出が実現しています。

さらに、福祉、観光、教育など多様な分野との連携が強化され、県民がひょうごでの「農」とつながることで、県民や農林漁業者が健康で豊かな暮らしを実現しています。

にぎわいのある農山漁村の創出



基本方向3 県民とともに育む豊かな食と「農」の充実





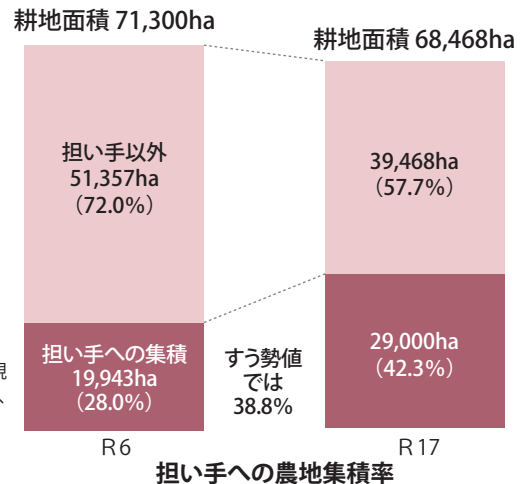
人と環境にやさしい農業の推進と 地域の特色・立地を活かした農業の展開

効率的・安定的な農業経営のための生産基盤である農地の整備及び保全が適切に行われるとともに担い手に農地が集積・集約化され、気候変動や病害虫に耐性を持つ新品種やスマート農業技術の導入による生産性向上が進み、都市近郊の立地を活かした収益性の高い農業が展開されています。また、経営継承を円滑化する体制整備に加え、雇用環境の整備や農業支援サービス事業体の活用により、農業の労働力が確保されています。さらに、経営の視点を取り入れることによって人と環境にやさしい農業が進展し、定着しています。

2035年の展望

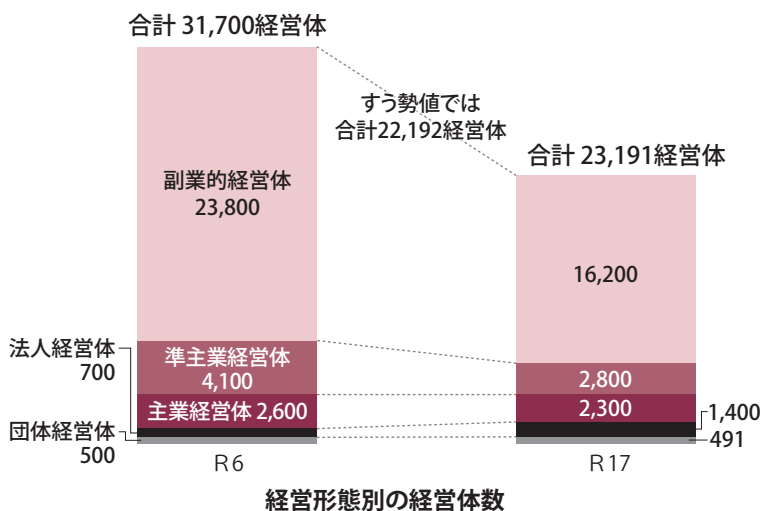
- 1 地域計画の実現に向けた取組の推進などにより、担い手への農地集積面積が増加しています。

担い手：認定農業者、認定新規就農者、基本構想水準到達者、集落営農経営



- ② 法人経営体が増加し、集落営農組織等の団体経営体や個人経営体である主業経営体とともに担い手として活躍しています。あわせて、準主業経営体や副業的経営体など多様な人材が担い手と協力し、地域の農業や農村を支えています。

- ① **主業経営体**
農業所得が主(世帯所得の50%以上が農業所得)で自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体
- ② **準主業経営体**
農外所得が主(世帯所得の50%未満が農業所得)で自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体
- ③ **副業的経営体**
自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいない個人経営体
- ④ **法人経営体**
農業経営体のうち、法人化して事業を行う経営体
- ⑤ **団体経営体**
農業経営体のうち、個人経営体及び法人経営体以外の経営体



- ③ 「コ・ノ・ホ・シ」など高温耐性品種の普及、スマート農業機械による作業請負の推進、農地の大区画化、担い手の確保、地域計画に基づく規模拡大志向農家への農地の集積・集約化、多様な担い手による農地の維持・活用により、米の生産が維持され、米の食料自給率が維持されています。

本県における米の食料自給率(カロリーベース)
54.1%(令和5年度)→55.6%(令和17年度)

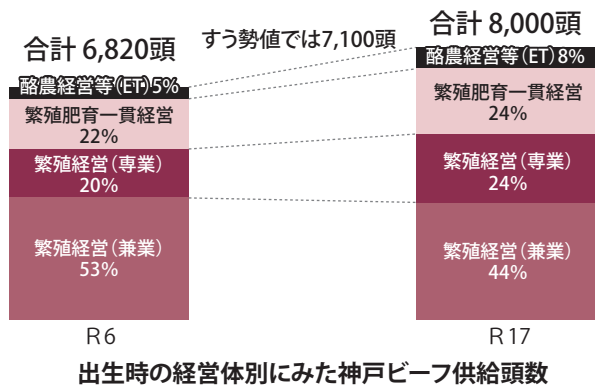
需要に応える持続可能な畜産業の推進

牛群改良や生産技術の向上により温暖化等気候変動への対応が進むとともに、スマート機器が広く普及し、省力化や生産性の向上により収益性の高い畜産業が展開されています。耕畜連携の推進により畜産堆肥の利活用が図られ、飼料作物が増産されています。

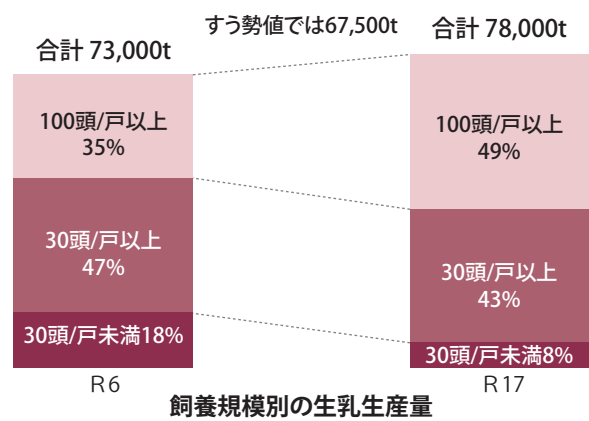
また、但馬牛の生産・供給体制が強化され、旺盛な神戸ビーフの需要に応えるとともに、国内外で鶏卵などの県産畜産物の需要が高まっています。

2035年の展望

- ① 繁殖経営の規模拡大やスマート機器による適期交配、受精卵移植の普及など生産性の向上により神戸ビーフの肥育素牛が増産され、旺盛な需要に応える生産が行われています。



- ② 小規模経営が減少する一方で、スマート機器の普及や長命連産性に優れた牛群への改良により生涯乳量が増え、収益性の高い酪農業が展開されています。



資源循環型林業の推進と木材利用の拡大

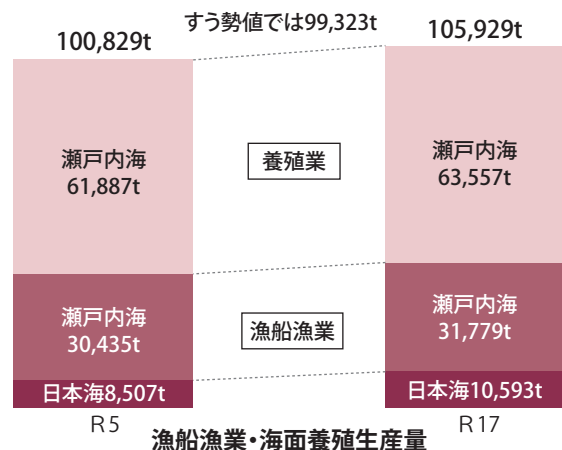
林業経営に適した人工林では、「主伐・再造林低コスト普及モデル」が普及するなど、資源循環型林業が実現しており、条件不利地にある人工林では、森林の公益的機能の発揮を目指し、市町等による公的な管理が進展しています。スマート林業や高精度な森林資源情報の活用が進み、雇用環境が向上し、新規就業者が定着するとともに、自伐型林家など多様な担い手が参入しています。県産木材の認知度が高まり、木育等の啓発も進んで民間施設や店舗、土木資材等での需要が拡大しています。林道整備や高性能林業機械の導入とともに、木材の加工流通体制が整備され、需要に対応した木材が安定的に供給されています。

豊かな海と持続的な水産業の実現

ひょうご豊かな海づくり県民会議と連携するなど地域住民や消費者の理解も得ながら栄養塩類が適正な水準に管理され、海底耕うんなど漁業者の取組や、漁場整備、種苗放流などにより豊かな海が再生しています。科学的な調査に基づく適正な資源管理が図られるとともに、温暖化等気候変動に対応した技術の普及や省エネ型漁船の導入が進み、海洋環境と調和のとれた持続可能な漁業が実現しています。経営感覚に優れた意欲ある経営者の確保・育成により円滑な世代交代が進んでいます。

2035年の展望

- 豊かな海の再生に取り組むことにより、漁船漁業・海面養殖業とも漁業生産量が安定化しています。瀬戸内海のイカナゴやマダコ、日本海のズワイガニやハタハタなど、重要魚種の資源管理と資源増大に取り組むとともに、低・未利用魚の利活用の促進により、漁船漁業の漁獲量が維持されています。瀬戸内海のノリ養殖をはじめ、海洋環境の変化に対応した藻類養殖、二枚貝養殖、魚類養殖を育成・強化し、生産量が維持されています。



ブランド力を活かした攻めの農林水産業の展開

環境との調和などの新しい視点を含めた県産農林水産物のブランドが評価され、農林漁業者の所得が向上しています。また、国内や海外での販路が開拓され、需要が拡大しています。

食の安全を支える生産体制の確保

重大家畜伝染病に対する防疫体制の強化や安全で適正な農薬使用の推進により食の安全を支える生産体制が構築され、県民の安全・安心が確保されています。

基本方向 2

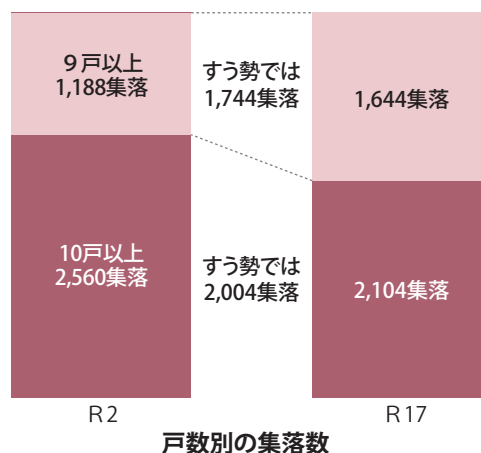
にぎわいのある農山漁村の創出



持続可能な農山漁村コミュニティづくり

地域における話し合いによる合意がなされ、効率的・安定的な農業経営を営む者とそれ以外の多様な人材が協働して地域農業を支える体制が構築されています。野生鳥獣の個体数管理や被害管理を行う体制が整備され、鳥獣被害が減少しています。良好な農空間や里山林が再生・保全されるなど、農山漁村が持つ多面的な機能が維持されることにより、交流・憩いの場が創出されています。

- 二地域居住や農村RMO形成推進などの地域活性化により、集落活動が継続できる10戸以上の集落が維持されるとともに、複数集落が連携し、集落活動が継続できています。



地域資源を活かした農山漁村ビジネスの創出

農林水産物や食文化、景観、バイオマスなどの地域資源が活用され、農山漁村における新しいビジネスが生まれ出されています。農林漁業体験などの都市との交流が活発に行われ、農林水産物の購入や二地域居住が進むなど多様な形で関係人口が増加し農山漁村が活性化しています。

農山漁村の防災・減災対策の推進

農業水利施設や山地・漁港の保全・整備、ICTの活用により、災害に強い安全・安心な農山漁村の暮らしが確保されています。

豊かな森づくりの推進

公的関与による針広混交林を含めた森林管理の適切な実施や、森林ボランティア等多様な主体による森づくり活動が行われ、森林が有する水源涵養や山地防災機能等の公益的機能が向上しています。

① 育成単層林(スギ・ヒノキ一斉人工林など、人為的に成立・維持される森林)

林業事業者が、生育条件や立地条件が良いスギ・ヒノキ人工林の主伐・再造林やその周辺森林における抜き切り等により、持続的な木材生産を行い、建築用から燃料用までの幅広い需要に対し、県産木材が安定的に供給されています。

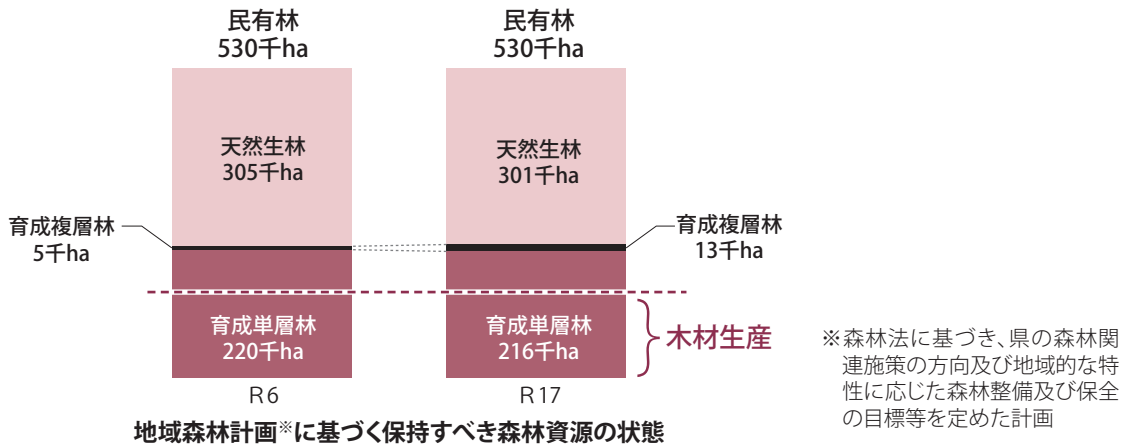
公的管理の主体である市町等が、生育条件や立地条件が悪いスギ・ヒノキ人工林を部分的に伐採し、その後に広葉樹が進入することなどで針広混交林化が進んでいます。

② 育成複層林(複数の樹冠層を構成する森林)

林業事業者や市町等が、公益的機能の高度発揮を図るため、抜き伐り等を実施した後、植林や発芽などにより森林が更新し、間伐などの保育を計画的に実施しています。

3 天然生林(主として天然力により成立・維持される森林)

自然の推移にゆだねて森林が維持され、公益的機能の高度発揮が図られています。一部の区域では、更なる公益的機能の発揮を目指し、森林ボランティアなどの多様な主体が、不要木の除去などの保全管理活動を実施しています。



基本方向 3

県民とともに育む豊かな食と「農」の充実



「農」と多様な分野との連携強化

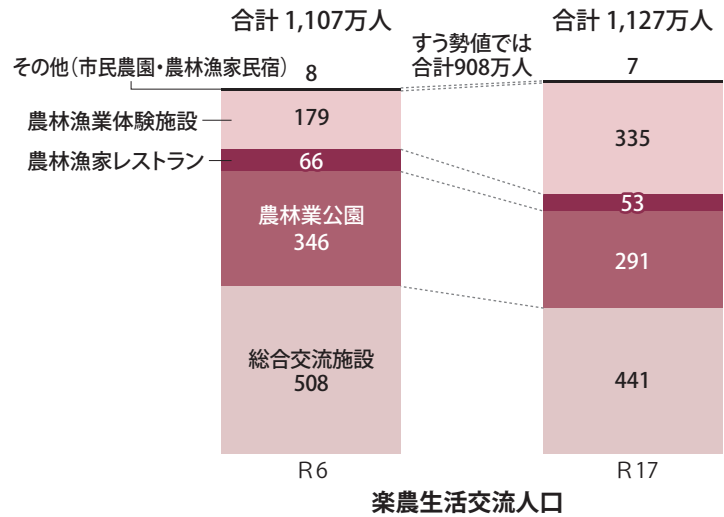
健康、福祉、観光、教育などの多様な分野との連携が強化され、農林水産業や農山漁村に関心が広がり、関わる人が増加しています。

県民とのつながりで育む食と「農」

県産県消の意義や県産木材の良さが消費者に理解され、県産農林水産物の認知度が向上するとともに、ひょうごの食と、農林水産業・農山漁村について、県民の理解がさらに進み、それぞれのライフスタイルに合った「楽農生活」が実践されています。地域の景観維持や食文化、日本型食生活、環境と調和のとれた農林水産業に対する消費者の理解が広がり、合理的な価格形成が行われています。

2035年の展望

- ひょうごオープンファームや兵庫楽農生活センターの活用促進により、農林漁業体験施設の利用人数が増加し、楽農生活交流人口全体も増加しています。



県民への安定的な食料供給

安全・安心な食料が安定的に供給される生産流通体制が構築されています。